

未定稿

平成31年度

鉄道局関係予算決定概要

平成30年12月

国土交通省鉄道局

## 平成31年度鉄道局関係予算について

### ＜鉄道局関係予算＞

公共事業	1,086億円（対前年度比1.07倍）
非公共事業	25億円（対前年度比0.72倍）
<b>合計</b>	<b>1,111億円（対前年度比1.06倍）</b>

（関連事項） 地域公共交通確保維持改善事業	220億円の内数
訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業	55億円の内数
公共交通利用環境の革新等	55億円の内数

### ＜主な施策＞

#### ●整備新幹線の整備の推進（P.3）

- 平成27年1月の政府・与党申合せの完成・開業目標時期での  
確実な開業に向け、着実に整備 【792億円】

#### ●都市鉄道ネットワークの充実（P.5）

- 神奈川東部方面線の整備 【116億円】
- なにわ筋線の整備 新規、福岡市七隈線の延伸整備  
【60億円の内数】

#### ●安全・安心の確保（P.8）

- 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の推進  
【127億円の内数】
- 鉄道施設の戦略的維持管理・更新 【66億円の内数】
- 地域鉄道の安全性向上に資する設備更新 【286億円の内数】

#### ●鉄道の災害復旧（P.15）

- 鉄道軌道整備法等による災害復旧支援 【9億円】

#### ●鉄道駅のバリアフリー化等、鉄道の利便性の向上（P.16）

- エレベーター、ホームドア等の設置 【390億円の内数】
- 鉄道駅の総合的な改善 【25億円】

#### ●鉄道の技術開発・普及促進（P.18）

- 鉄道技術開発・普及促進制度 新規 【2億円】

#### ●鉄道システム・技術の海外展開（P.19）

- トップセールス、案件発掘・形成調査、鉄道技術・規格の国際  
標準化対応等 【17億円の内数】

# 目 次

I. 平成31年度鉄道局関係予算総括表	1
II. 平成31年度鉄道局関係予算施策別概要	
1. 整備新幹線の整備の推進	
(1) 整備新幹線の着実な整備	3
(2) 整備新幹線の建設推進及び高度化	4
(3) 幹線鉄道ネットワーク等のあり方に関する調査	4
2. 都市鉄道ネットワークの充実	
(1) 既存の都市鉄道網を活用した連絡線の整備等	5
(2) 地下高速鉄道ネットワークの充実	
① なにわ筋線の整備	6
② 福岡市七隈線の延伸整備	7
(3) 空港アクセス鉄道等の今後のあり方に関する調査	7
3. 安全・安心の確保	
(1) 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の推進	8
(2) 鉄道施設の豪雨対策、耐震補強の推進	9
(3) 地下駅等の浸水対策	10
(4) 地域鉄道の安全性の向上	11
(5) 戦略的なメンテナンス・老朽化対策	
① 鉄道施設の戦略的維持管理・更新	12
② 青函トンネルの機能保全	13
(6) 海岸等保全、落石・なだれ等対策	14
(7) 事故防止のための踏切保安設備の整備	14
(8) 東京オリンピック・パラリンピックに向けた鉄道テロ対策に関する調査	14
4. 鉄道の災害復旧	15
5. 鉄道駅のバリアフリー化等、鉄道の利便性の向上	
(1) 鉄道駅におけるバリアフリー化の推進	16
(2) 駅空間の質的進化（次世代ステーション創造事業）	17
(3) 列車遅延対策の推進	17
(4) 地域鉄道の利便性の向上（コミュニティ・レール）	17
6. 鉄道の技術開発・普及促進	
(1) 鉄道技術開発（一般鉄道）	18
(2) 鉄道技術開発・普及促進制度	18
7. 鉄道システム・技術の海外展開	19
【関連事項】	20

1. 平成31年度鉄道局関係予算総括表

1. 鉄道局関係予算事業費・国費総括表

(単位：百万円)

区 分	専 業 費		倍 率 (A/B)	国 費		倍 率 (C/D)	備 考
	平成31年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)		平成31年度 予算額 (C)	前年度 予算額 (D)		
【公共事業関係費】							
【整備新幹線】							
1. 整備新幹線整備事業費補助	396,300	348,000	1.14	79,192	75,450	1.05	<参考> ○平成30年度第2次補正予算 補正予算額 百万円 878 52 200 2,810 339 3,364の内数 300の内数
【都市・幹線鉄道】							
2. 都市鉄道利便増進事業費補助	94,077	81,428	1.16	28,455	24,676	1.15	
3. 都市鉄道整備事業費補助(地下高速鉄道)	39,235	34,776	1.13	11,568	11,568	1.00	
4. 幹線鉄道等活性化事業費補助	23,982	18,084	1.33	8,042	4,557	1.33	
5. 幹線鉄道総合改善事業費補助	2,004	7,985	0.25	525	1,286	0.41	
6. 鉄道防災事業費補助	7,359	7,079	1.04	2,453	2,253	1.09	
7. 鉄道施設総合安全対策事業費補助	1,982	1,630	1.22	1,259	1,030	1.22	
【災害復旧】							
8. 鉄道施設災害復旧事業費補助	19,515	11,874	1.64	6,608	3,982	1.66	
【その他事項経費】							
1. 鉄道技術開発費補助金 ・ 超電導技術高度化等 ・ 一般鉄道	370 66 304	699 119 580	0.53 0.56 0.52	169 17 152	320 30 290	0.53 0.56 0.52	22,005の内数 5,474の内数 5,500の内数
2. 技術研究開発委託費	-	-	-	153	0	増	
3. 整備新幹線建設推進高度化等事業費補助金 ・ 設計施工法等調査等 ・ 青函共用走行区間における貨物列車走行調査 ・ 軌間可変電車(リニア-シフトレイン)の技術開発	1,561 1,217 344 0	2,500 1,100 500 900	0.62 1.11 0.69 増	1,561 1,217 344 0	2,500 1,100 500 900	0.62 1.11 0.69 増	
4. 新線調査費等補助金	-	-	-	41	0	86	
5. 戦傷病者等無賃乗船等負担金	-	-	-	9	0	14	
6. 踏道線建設費等利子補給金	-	-	-	52	0	73	
7. 鉄道整備等基礎調査委託費	-	-	-	295	0	280	
8. 経済協力調査委託費	-	-	-	255	0	250	
小 計	1,931	3,199	0.60	2,535	3,523	0.72	
合 計	495,948	434,967	1.14	111,092	104,559	1.06	
<関連事項>							
地域公共交通確保維持改善事業				22,005の内数	0	-	
訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業				5,474の内数	0	-	
公共交通利用環境の革新等				5,500の内数	0	-	

2. 鉄道局関係財政投融資計画総括表

区 分	平成31年度 (A)	前年度 (B)	倍率 (A/B)
【機関名】 鉄道建設・運輸施設整備支援機構	13,800	12,000	1.15

(注) 1. 【その他事項経費】の小計は、旅費、片費類の一般事務費等を含んでいない。  
 2. 財政投融資計画は、鉄道建設・運輸施設整備支援機構の鉄道整備に係る業務分である。  
 3. 端数処理により、計は一致しない場合がある。

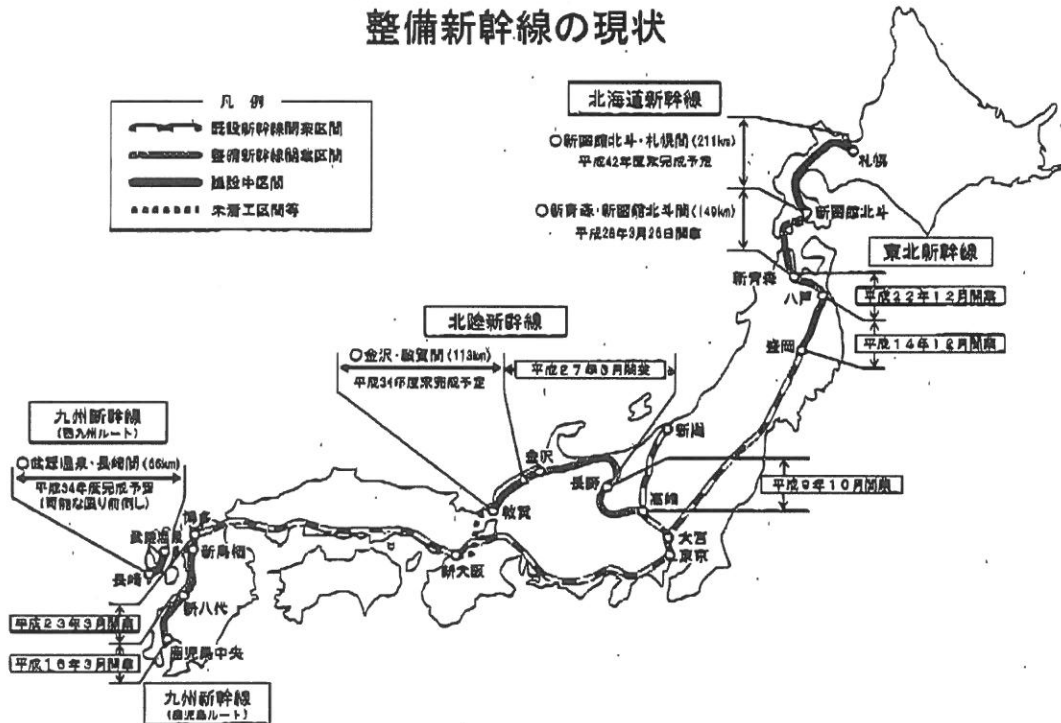
## Ⅱ. 平成31年度鉄道局関係予算施策別概要

### 1. 整備新幹線の整備の推進

#### (1) 整備新幹線の着実な整備

[事業費：396,300百万円、国費：79,192百万円]  
(整備新幹線整備事業費補助)

整備新幹線について、平成27年1月14日の政府・与党申合せの完成・開業目標時期での確実な開業に向け、着実に整備を進める。



- ◎『整備新幹線の取扱いについて』(平成27年1月14日政府・与党申合せ)の主な内容
- 北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)  
完成・開業時期を平成47年度から5年前倒しし、平成42年度末の完成・開業を目指す。
  - 北陸新幹線(金沢・福井・敦賀間)  
完成・開業時期を平成37年度から3年前倒しし、平成34年度末の完成・開業を目指す。
  - 九州新幹線(武雄温泉・長崎間)  
完成・開業時期を平成34年度から可能な限り前倒しする。

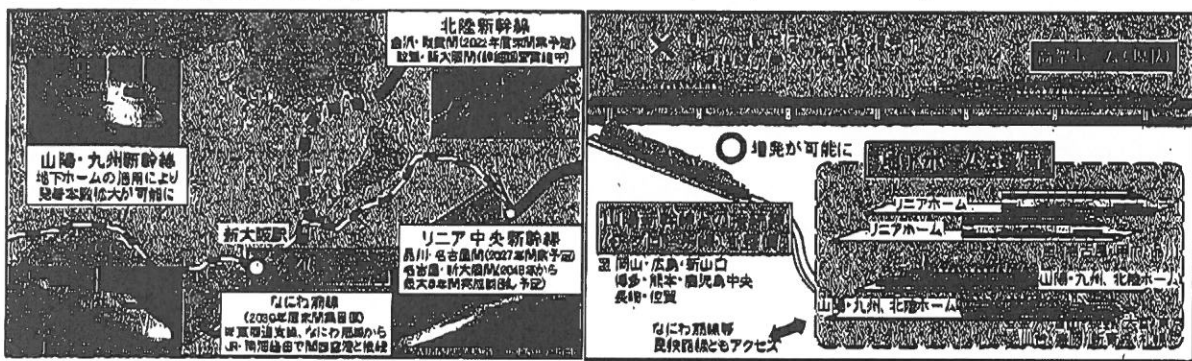
## (2) 整備新幹線の建設推進及び高度化

[事業費：1,561 百万円、国費：1,561 百万円]  
(整備新幹線建設推進高度化等事業費補助金)

### ① 設計施工法等調査等

北陸新幹線の環境影響評価等整備新幹線の工事の円滑な実施又は整備方策の検討に必要な調査を行う。

特に、新大阪駅については、リニア中央新幹線、北陸新幹線（詳細ルート調査中）等との乗継利便性の観点から、結節機能強化や容量制約の解消を図るため、民間プロジェクトの組成など事業スキームを検討し、新幹線ネットワークの充実を図るために必要な調査を行う。



### ② 青函共用走行区間における貨物列車走行調査

新幹線列車と貨物列車とが共用走行する青函共用走行区間において、安全性を確保しつつ新幹線列車を高速走行させるための具体的な方法等について調査するとともに、高速走行に必要な以下の技術開発を行う。

- ・新幹線高速走行中の貨物列車の誤進入を防止するシステムの開発
- ・新幹線走行前の線路上の支障物の確認時間を短縮するための確認車等の開発
- ・青函共用走行区間における貨物列車のあり方についての調査 等

## (3) 幹線鉄道ネットワーク等のあり方に関する調査

[国費：295 百万円の内数]  
(鉄道整備等基礎調査委託費)

幹線鉄道等の鉄道は、地域間の移動時間を大幅に短縮し、駅その他周辺地域の開発を促進することにより、我が国の経済活動や国民生活の向上に極めて大きな効果をもたらしてきた。基本計画路線を含む幹線鉄道ネットワーク等の今後のあり方を検討するため、単線による新幹線整備その他の効果的・効率的な整備手法等に係る具体的な調査を行う。

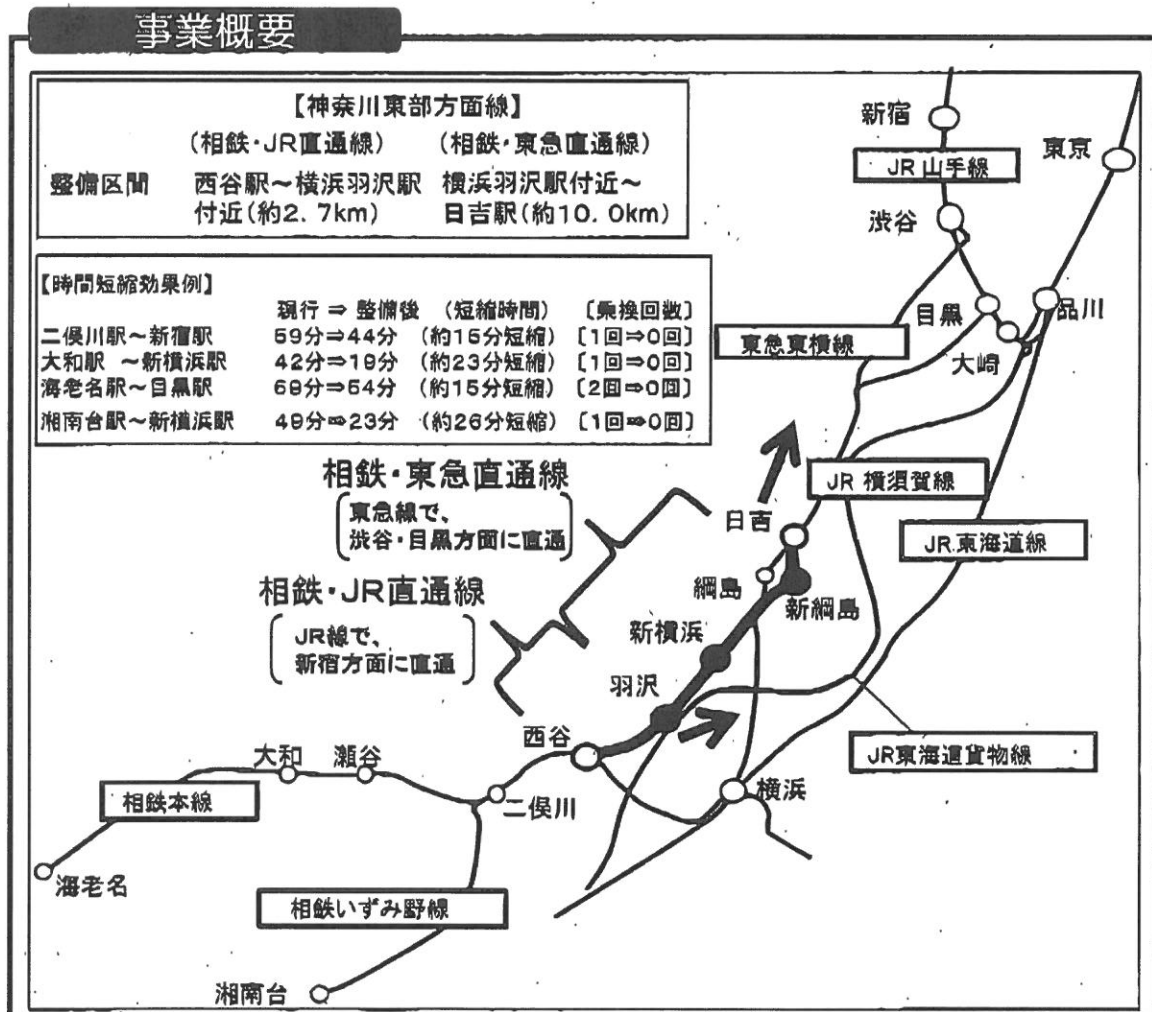
## 2. 都市鉄道ネットワークの充実

都市鉄道は、大都市における社会経済活動を根幹で支える主要なインフラであることから、路線間の連絡線の整備や相互直通化、地下鉄の整備等を推進し、都市鉄道ネットワークの充実や一層の利便性向上を図ることにより、大都市の活性化や競争力の強化を進める。

### (1) 既存の都市鉄道網を活用した連絡線の整備等

〔事業費：39,235百万円、国費：11,568百万円〕  
 (都市鉄道利便増進事業費補助(速達性向上事業))

都市鉄道の路線間の連絡線整備や相互直通化を進め、既存の都市鉄道施設を有効活用しつつ、都市鉄道ネットワークの一層の充実を図る。



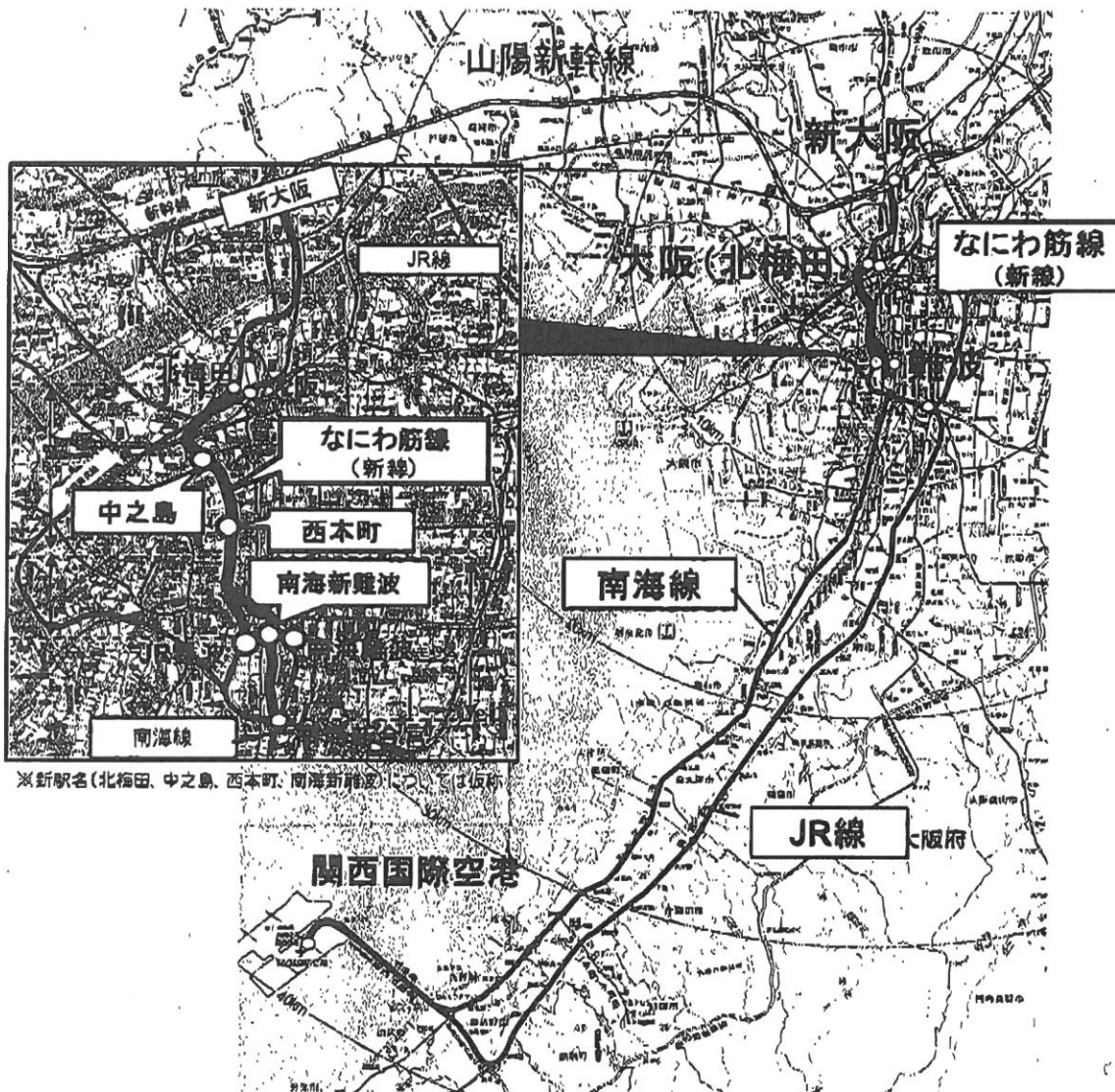
(2) 地下高速鉄道ネットワークの充実

[事業費：23,982百万円の内数、国費：6,042百万円の内数]  
(都市鉄道整備事業費補助(地下高速鉄道))

大都市圏中心部における移動の円滑化、通勤・通学混雑の緩和等を図るため、地下高速鉄道ネットワークの充実を推進する。

① なにわ筋線の整備

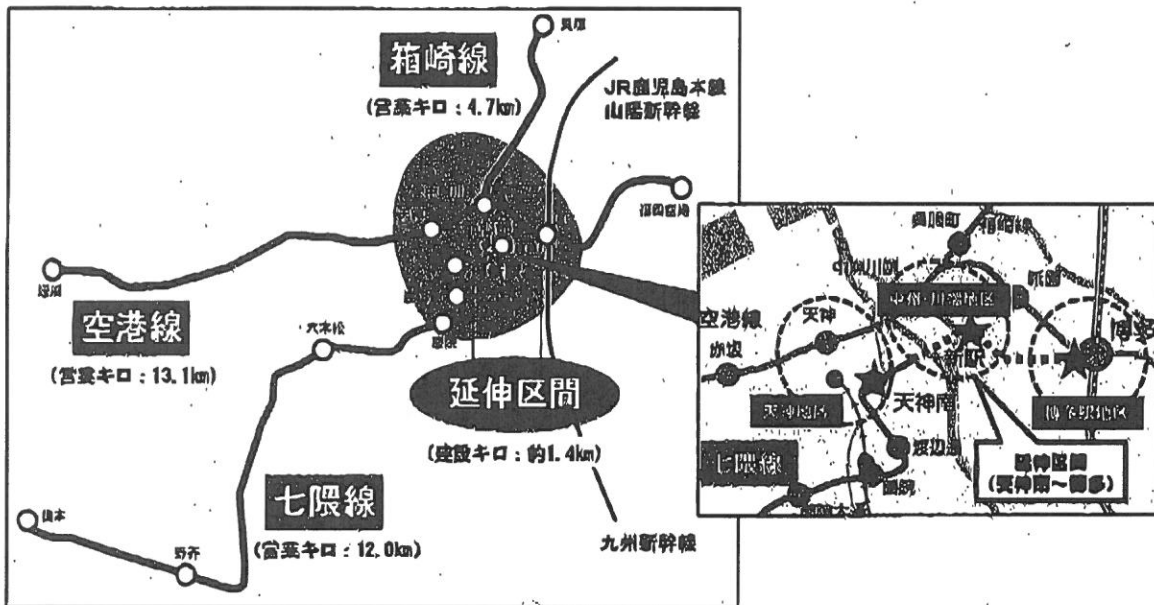
大阪都心部を南北に縦貫する新線を整備し、既存の鉄道路線と接続させることにより、関西国際空港や新大阪駅へのアクセス性の向上、大阪の南北都市軸の強化など、都市機能の一層の充実を図る。





② 福岡市七隈線の延伸整備

福岡市の二大核である「天神地区」と「博多駅地区」を結ぶことにより、都市中心部の移動の円滑化や福岡市西部から博多駅へのアクセス性を向上させるなど都市機能の一層の充実を図る。



(3) 空港アクセス鉄道等の今後のあり方に関する調査

[国費:295百万円の内数]  
(鉄道整備等基礎調査委託費)

訪日外国人旅行者数が急増する中で、今後の国際拠点空港等の需要増に対応するため、空港アクセス鉄道構想の事業性等について調査を行う。また、都市鉄道ネットワークの今後のあり方等に関する調査を行う。

### 3. 安全・安心の確保

#### (1) 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の推進

[事業費：19,515百万円の内数、国費：6,608百万円の内数]  
(鉄道施設総合安全対策事業費補助)

[事業費：23,982百万円の内数、国費：6,042百万円の内数]  
(都市鉄道整備事業費補助(地下高速鉄道))

#### <参考>

[平成30年度第2次補正予算]

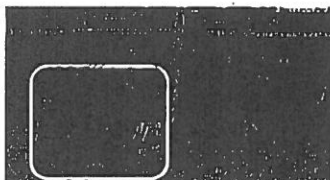
鉄道施設総合安全対策事業費補助  
都市鉄道整備事業費補助

国費：2,810百万円の内数  
国費：878百万円の内数

国民経済・生活を支える交通インフラとして重要な役割を担う鉄道が、豪雨や地震等の災害に対してその機能を維持できるように、重要インフラの緊急点検を踏まえて、①鉄道河川橋りょうの流失・傾斜、②鉄道隣接斜面からの土砂流入防止、③地下駅・電源設備等の浸水、④地震による落橋・桁ずれ、高架橋等の倒壊・損傷等に関する緊急対策を推進する。

#### 【防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策の例】

##### ① 鉄道河川橋りょうの流失・傾斜対策



平成30年7月豪雨により被災した橋脚  
(JR予讃線 財田川橋りょう)

##### 洗掘防止工

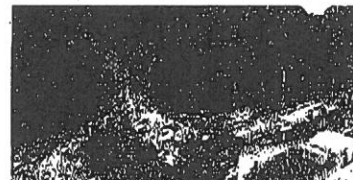
河川に隣かる鉄道橋りょう  
(イメージ図)



橋りょう(橋脚)の補強例

石やブロックを  
設置し、河床  
を補強

##### ② 鉄道隣接斜面からの土砂流入防止対策



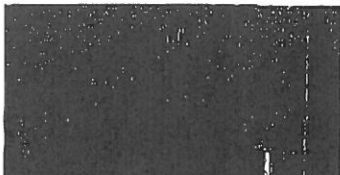
平成30年7月豪雨により崩壊した斜面  
(JR呉線)

##### 法面防護工



コンクリート柱による補強

##### ③ 地下駅・電源設備等の浸水対策



平成30年台風21号により浸水した線路  
(関空アクセス鉄道)

##### ケーブルの移設



##### ④ 地震による落橋・桁ずれ、高架橋等の倒壊・損傷対策



大規模地震により倒壊した高架橋  
(阪神・淡路大震災)

##### 鋼板巻きによる耐震補強



(2) 鉄道施設の豪雨対策、耐震補強の推進

[事業費：19,515百万円の内数、国費：6,608百万円の内数]  
(鉄道施設総合安全対策事業費補助)

[事業費：23,982百万円の内数、国費：6,042百万円の内数]  
(都市鉄道整備事業費補助(地下高速鉄道))

<参 考>

[平成30年度第2次補正予算]

鉄道施設総合安全対策事業費補助

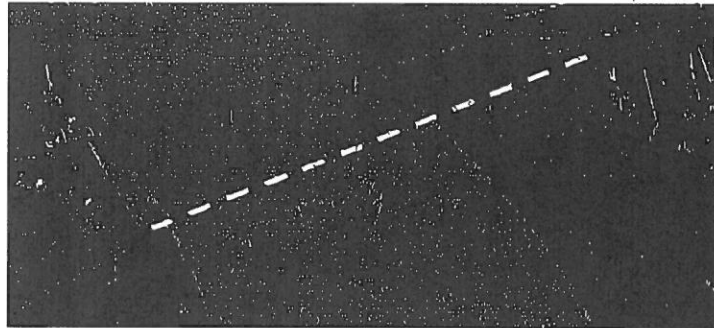
国費：2,810百万円の内数

都市鉄道整備事業費補助

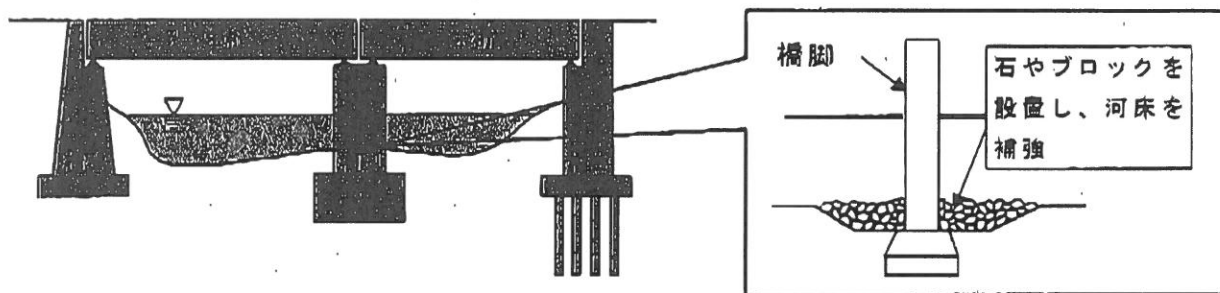
国費：878百万円の内数

近年、頻発化・激甚化する豪雨災害に適切に対応するため、河川に架かる鉄道橋りょうの流失・傾斜対策や鉄道に隣接する斜面からの土砂流入防止対策を推進する。

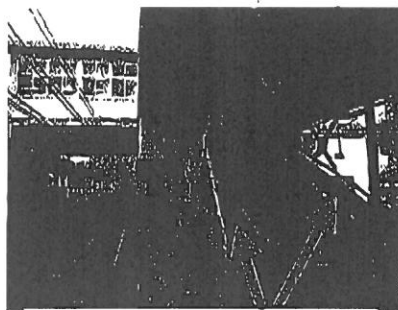
九州北部豪雨によるJR九州久大線花月川橋りょうの被災状況



河川橋りょうの洗掘防止工のイメージ図



また、首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模地震に備え、地震時において、鉄道利用者の安全確保等を図るため、主要駅や橋りょう等の耐震補強を一層推進するとともに、地下鉄の耐震補強も引き続き推進する。



鉄骨ブレースによる補強



鋼板巻きによる高架橋の補強

(3) 地下駅等の浸水対策

[事業費：19,515百万円の内数、国費：6,608百万円の内数]  
(鉄道施設総合安全対策事業費補助)

[事業費：23,982百万円の内数、国費：6,042百万円の内数]  
(都市鉄道整備事業費補助(地下高速鉄道))

<参 考>

[平成30年度第2次補正予算]

鉄道施設総合安全対策事業費補助

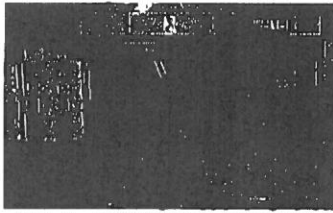
国費：2,810百万円の内数

三大都市圏をはじめとする大都市圏では地下駅等の地下空間が数多く存在し、河川氾濫や津波等の発生時における深刻な浸水被害が懸念される。

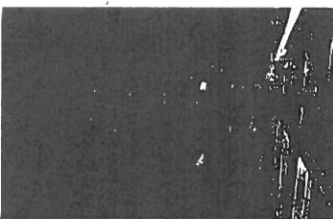
地下駅等地下空間は地上に比べ浸水のスピードが速く、一旦浸水が始まれば利用客の避難が困難となり、鉄道の運行にも大きな影響を与える。

このため、各地方公共団体が定めるハザードマップ等により浸水被害が想定される地下駅等について、駅の出入口やトンネルの坑口等における浸水対策を推進し、防災・減災対策の強化を図る。

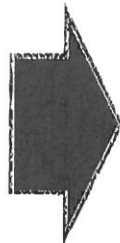
地下駅等の浸水被害



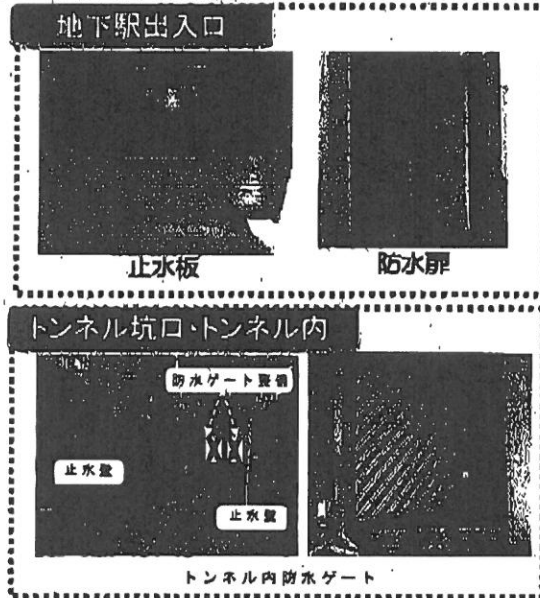
H15.7 福岡市交通局(博多駅)  
大雨による御笠川の氾濫  
(1日間運休、約10万人に影響)



H25.10 小田急電鉄(下北沢駅)  
台風による浸水  
(2時間運休、約40万人に影響)



○主な浸水対策設備



(4) 地域鉄道の安全性の向上

[事業費：19,515百万円の内数、国費：6,608百万円の内数]  
(鉄道施設総合安全対策事業費補助)

<参考>

[平成30年度第2次補正予算]  
鉄道施設総合安全対策事業費補助

国費：2,810百万円の内数

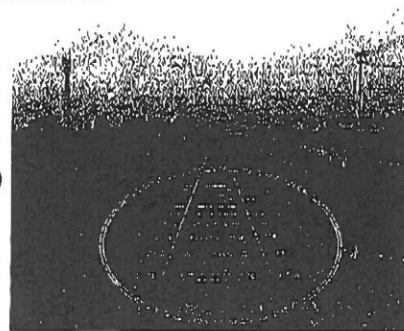
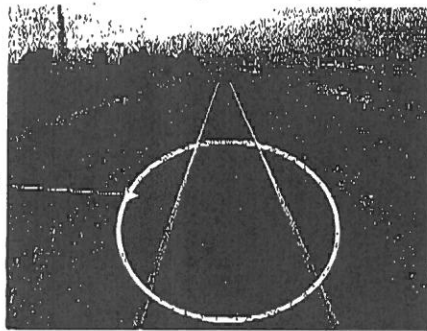
通勤・通学・通院のための利用など地域にとって欠くことの出来ない公共交通機関である地域鉄道等において、安全な鉄道輸送を確保するために行うレールやマクラギの更新、信号保安設備の整備など安全性の向上に資する設備の整備等に対して支援を行う。

線路設備 (コンクリートマクラギ化)

[改良前]

[改良後]

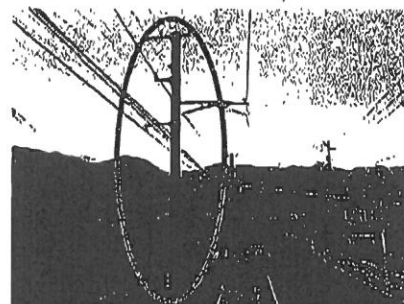
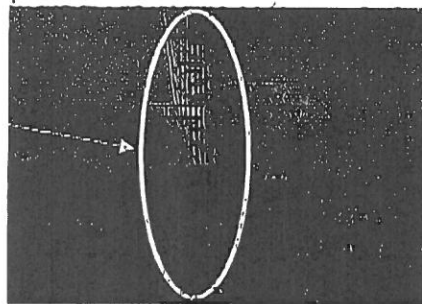
木製マクラギ



コンクリート製  
マクラギ

電路設備 (電柱コンクリート化)

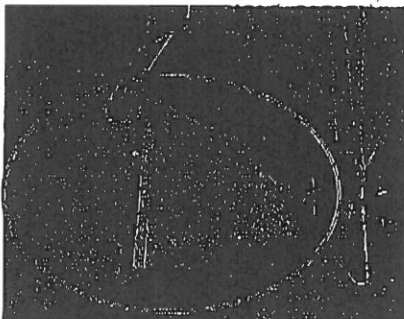
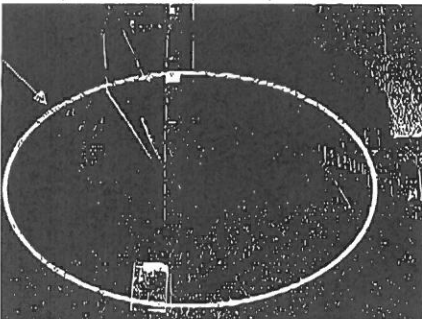
老朽化した鉄柱



長寿命な  
コンクリート柱

防護設備 (法面固定)

土砂法面



コンクリート  
法面

※上記のほか、地域公共交通確保維持改善事業 (総合政策局予算：22,005百万円の内数) においても引き続き支援。

(5) 戦略的なメンテナンス・老朽化対策

① 鉄道施設の戦略的維持管理・更新

[事業費：19,515百万円の内数、国費：6,608百万円の内数]  
(鉄道施設総合安全対策事業費補助)

<参 考>

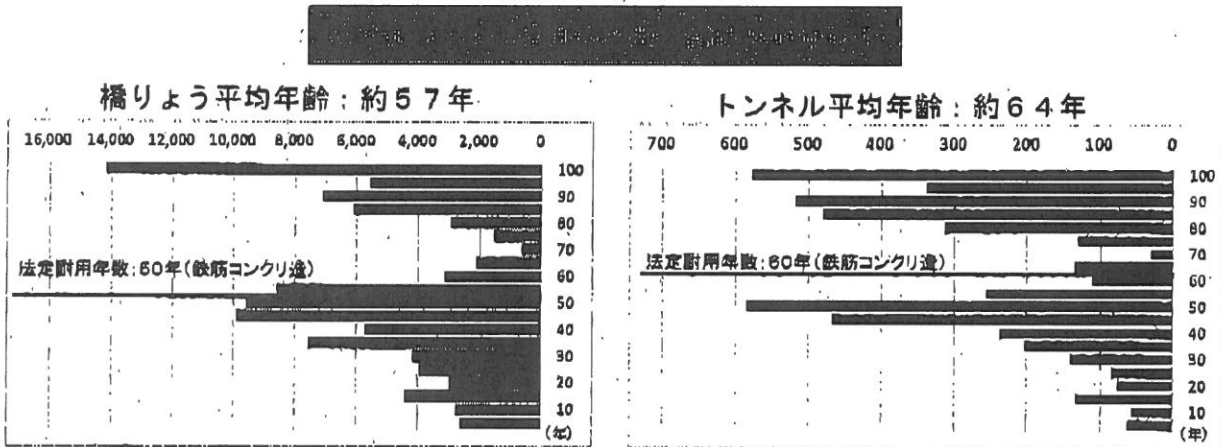
[平成30年度第2次補正予算]

鉄道施設総合安全対策事業費補助

国費：2,810百万円の内数

鉄道事業者が保有している橋りょうやトンネル等の鉄道施設には、法定耐用年数を超えたものが多くあるなど老朽化が進んでおり、これらの施設を適切に維持管理することが課題となっている。このため、人口減少が進み経営環境が厳しさを増す地方の鉄道事業者に対して、初期費用はかかるものの、将来的な維持管理費用を低減し長寿命化に資する鉄道施設の補強・改良を支援する。

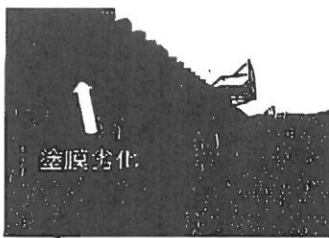
鉄道のストックピラミッド



老朽化する橋りょう、トンネルの長寿命化に資する補強・改良事例

・橋りょう

【改良前】



【改良後】



・トンネル

【補強前】



【補強後】



## ② 青函トンネルの機能保全

[事業費：1,982百万円の内数、国費：1,259百万円の内数]  
(鉄道防災事業費補助)

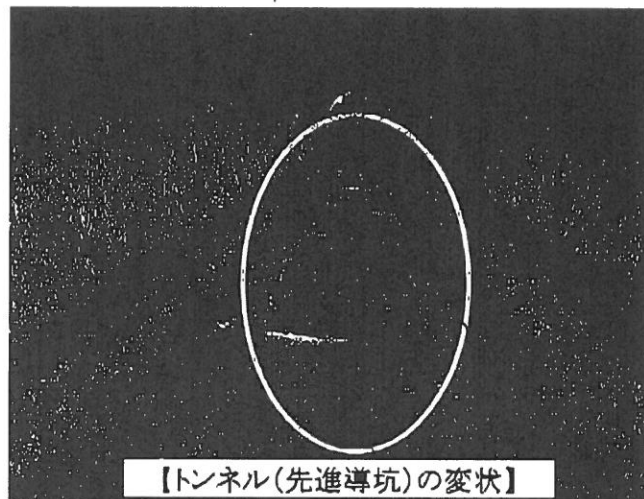
### <参 考>

[平成30年度第2次補正予算]  
鉄道防災事業費補助

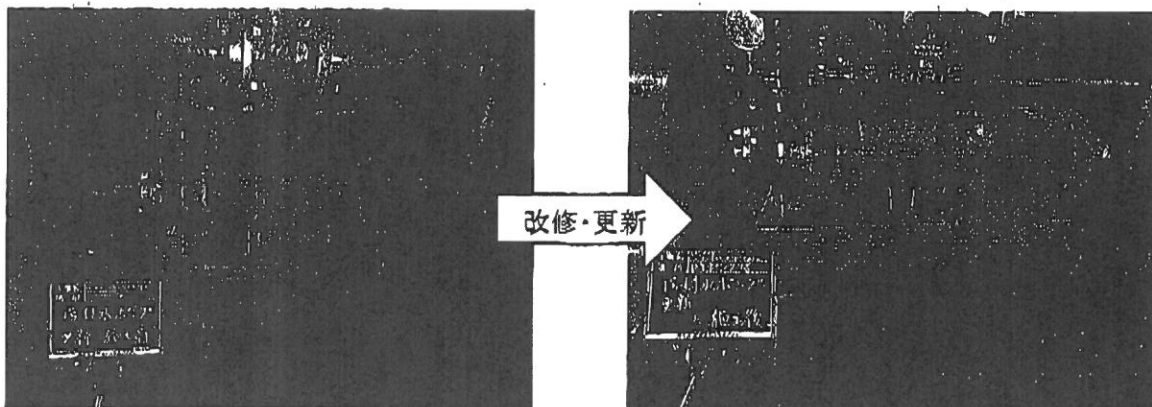
国費：200百万円

青函トンネルは、延長約54kmの我が国最長の海底トンネルであり、北海道と本州を結ぶ唯一の陸路である。昭和63年の開通以来30年が経過しており、湿度が高く、塩水が浸入する海底下という過酷な環境にあるため、青函トンネル特有の設備である火災検知装置や大型排水設備等の著しい劣化、先進導坑・作業坑といったトンネルに変状が発生している。

これら設備の改修・更新やトンネルの変状対策を実施することにより、北海道と本州間の円滑かつ安定した人流や物流機能を確保する。



### 排水設備の例



(6) 海岸等保全、落石・なだれ等対策

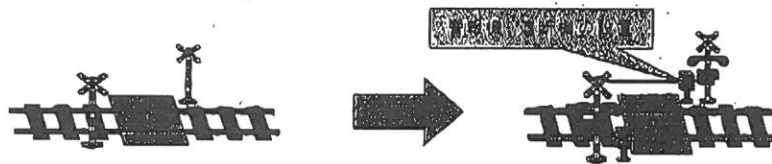
[事業費：1,982百万円の内数、国費：1,259百万円の内数]  
(鉄道防災事業費補助)

旅客会社等が行う海岸等保全のための施設整備や落石・なだれ等の対策のうち、鉄道施設だけではなく、近隣住民、道路、耕地等の保全保護にも資する事業を推進する。

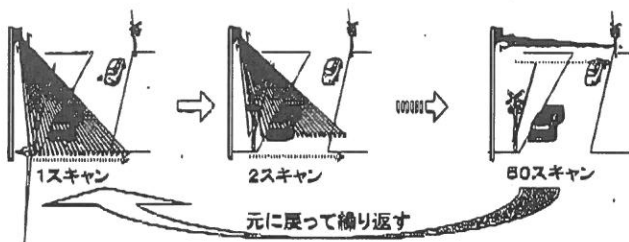
(7) 事故防止のための踏切保安設備の整備

[事業費：19,515百万円の内数、国費：6,608百万円の内数]  
(鉄道施設総合安全対策事業費補助)

踏切道における事故防止と交通の円滑化を図るため、踏切道改良促進法に基づき、引き続き踏切遮断機や警報機等の踏切保安設備の整備(第1種化等)を推進する。



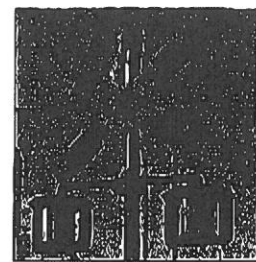
また、近年社会的に関心の高い高齢者等の歩行者の踏切事故を防止するため、踏切内に取り残された歩行者を検知しやすい障害物検知装置や取り残されたことを通報する非常押しボタン等の整備も進める。



(検知能力の高い障害物検知装置の例)



(非常押しボタンの例)



(全方位警報機の例)

(8) 東京オリンピック・パラリンピックに向けた鉄道テロ対策に関する調査

[国費：295百万円の内数]  
(鉄道整備等基礎調査委託費)

東京オリンピック・パラリンピックに向け、鉄道テロ対策は喫緊の課題となっている。このため、鉄道におけるセキュリティ向上のための手法等について調査を行う。



## 4. 鉄道の災害復旧

○鉄道軌道整備法等による鉄道の災害復旧支援

[事業費：3,640百万円、国費：910百万円]  
(鉄道施設災害復旧事業費補助)

<参考>

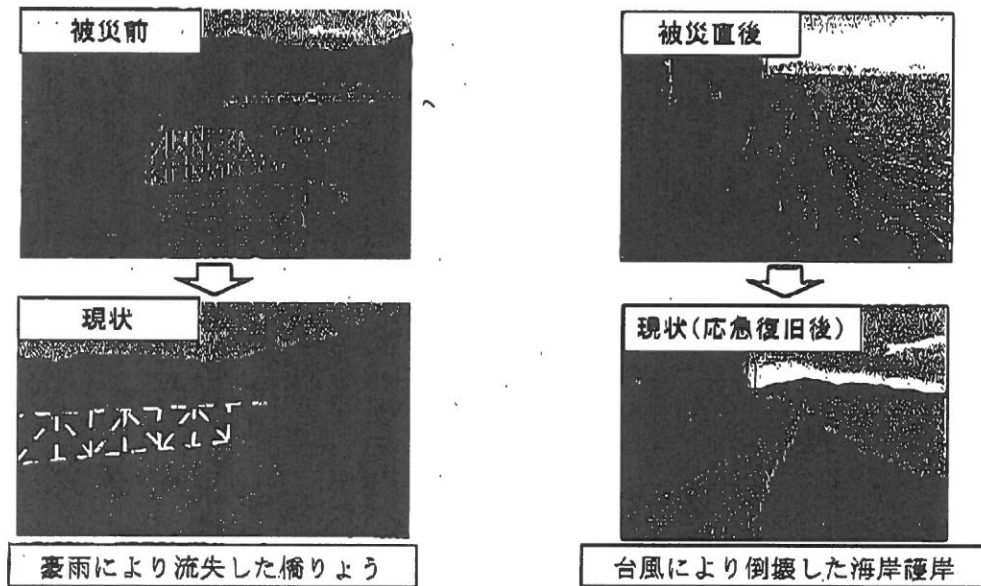
[平成30年度第2次補正予算]

鉄道施設災害復旧事業費補助

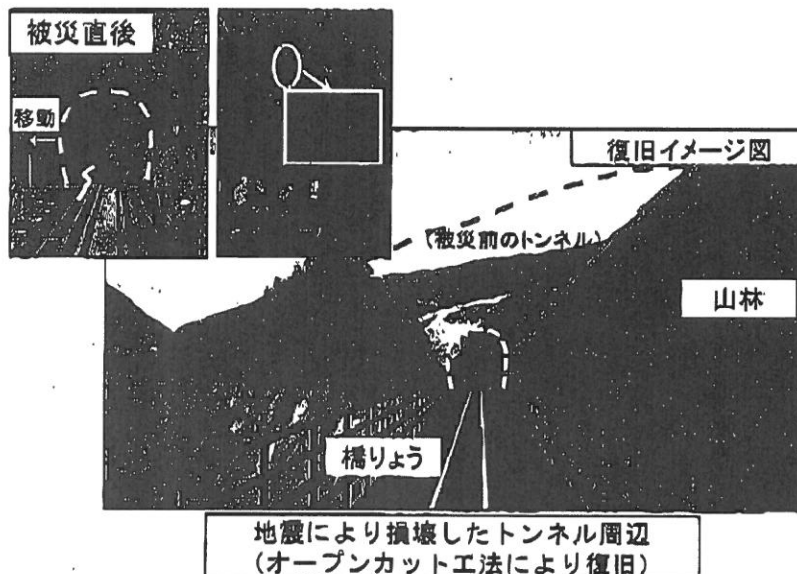
国費：339百万円

鉄道軌道整備法(※)に基づく災害復旧事業費補助により、地震や豪雨などの災害で被災した鉄道の早期復旧を支援する。

(※)平成30年6月の改正により、黒字鉄道事業者の赤字路線にも補助対象が拡大するとともに、一定の要件の下で補助率の嵩上げが可能となった。



また、特に大規模な災害で甚大な被害を受けた鉄道については、特別な支援制度(事業構造の変更等の要件を満たすことを前提として補助率を嵩上げ)により、復旧を強力に支援する。



## 5. 鉄道駅のバリアフリー化等、鉄道の利便性の向上

### (1) 鉄道駅におけるバリアフリー化の推進

[事業費：23,982百万円の内数、国費：6,042百万円の内数]

(都市鉄道整備事業費補助(地下高速鉄道))

#### <参考>

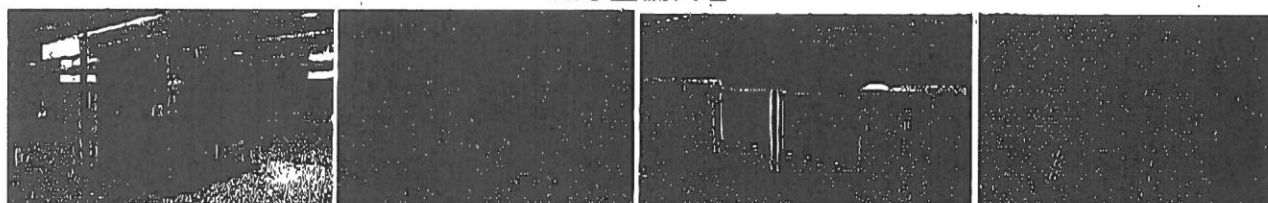
[平成30年度第2次補正予算]

都市鉄道整備事業費補助

国費：878百万円の内数

地域住民の日常生活や観光の拠点となっている鉄道駅において、エレベーター等の設置による段差解消、ホームドアや内方線付き点状ブロックの設置による転落防止、障害者対応型トイレの設置等を推進し、ユニバーサル社会の実現や快適な旅行環境の整備を図るとともに、オリンピック・パラリンピック東京大会までに、新国立競技場の最寄り駅である千駄ヶ谷駅、信濃町駅等において、エレベーターの増設・大型化、ホームドアの整備等を行うなど、東京大会関連駅のより高次元のバリアフリー化を進める。

#### 主な整備内容



エレベーター

障害者対応型トイレ

ホームドア

内方線付き点状ブロック

#### ○段差解消・障害者対応型トイレ等

・バリアフリー法の基本方針に基づき、1日当たりの利用者が3,000人以上の駅を2020年度までに原則として全てバリアフリー化する。

※約89% (3,192駅/3,575駅) で段差解消済み (平成29年度末)。

#### ○ホームドア

・「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」のとりまとめ(平成28年12月)に基づき、1日当たりの利用者が10万人以上の駅について、車両の扉位置が一定など整備条件を満たしている駅を原則として2020年度までに整備するなどホームドア整備を促進する。

・交通政策基本計画(平成27年2月閣議決定)において、2020年度に約800駅としている整備目標について、できる限りの前倒しを図る。

※上記のほか、地域公共交通確保維持改善事業(総合政策局予算：22,005百万円の内数)においても引き続き支援。

※観光庁予算に係る支援については20ページ参照。

(2) 駅空間の質的進化（次世代ステーション創造事業）

[事業費：7,359百万円、国費：2,453百万円]  
(鉄道駅総合改善事業費補助)

<参 考>

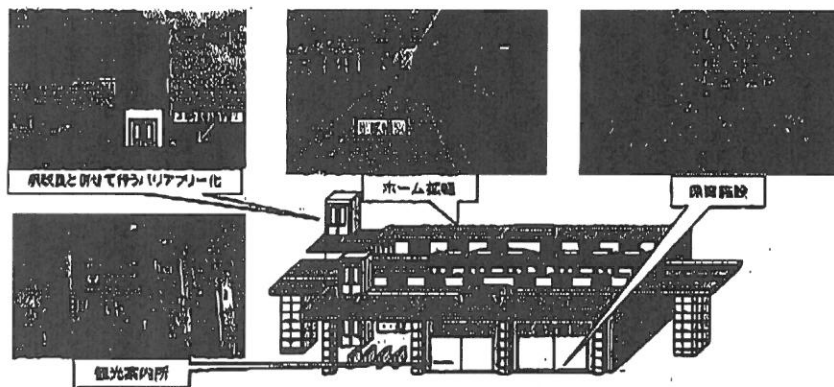
[平成30年度第2次補正予算]  
鉄道駅総合改善事業費補助

国費：52百万円

駅空間の質的進化を目指し、まちとの一体感があり、全ての利用者にやさしく、分かりやすく、心地よく、ゆとりある次世代ステーションの創造を図る。

○事業内容：地方公共団体、鉄道事業者、地方運輸局等からなる協議会（「駅まち会議」）において策定した整備計画に基づき、駅改良と併せて行うバリアフリー施設及び駅空間高度化機能施設の整備について支援

次世代ステーション創造事業イメージ



(3) 列車遅延対策の推進

[事業費：23,982百万円の内数、国費：6,042百万円の内数]  
(都市鉄道整備事業費補助(地下高速鉄道))

高密度ダイヤの運行や相互直通運転化に伴う慢性的な列車遅延の増加等に対処するため、ホーム拡張、折返施設等の整備を推進する。

○事業内容：ホームの拡張、エレベーター・エスカレーターの増設、改札の新設等

(4) 地域鉄道の利便性の向上（コミュニティ・レール化）

[事業費：2,004百万円の内数、国費：525百万円の内数]  
(幹線鉄道等活性化事業費補助（形成計画事業）)

潜在的な鉄道利用ニーズが大きい地方都市やその近郊の路線等について、地域公共交通活性化・再生法に基づく地域公共交通網形成計画の枠組みを活用して、地域鉄道の利用促進や地域の活性化を図るべく、鉄道の利便性向上のための施設整備（新駅の設置等）に対し支援を行う。

## 6. 鉄道の技術開発・普及促進

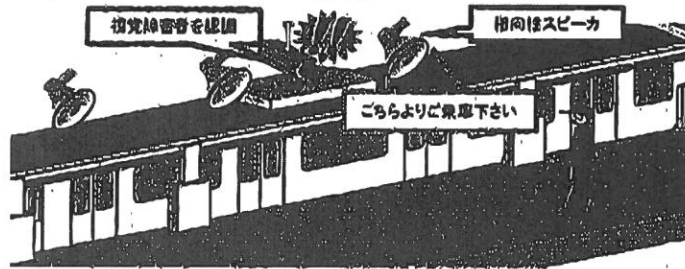
### (1) 鉄道技術開発（一般鉄道）

[事業費：304百万円、国費：152百万円]  
(鉄道技術開発費補助金)

①新技術の鉄道への応用に係る基礎的、基盤的技術開発、②安全対策に係る技術開発、③環境性能向上に資する技術開発、への支援を行う。

例：ホームの安全性向上に資する技術開発

開口幅の広いロープ式ホームドアは、多様な車両タイプが入るホームにも設置することができ、駅ホームの安全性向上に有効であるが、視覚障がい者にとっては乗車位置の特定が困難などの課題がある。このため、ホームに設置したカメラで白杖や盲導犬等を判別し、視覚障がい者に車両乗降位置等を案内するシステムの開発を行う。



### (2) 鉄道技術開発・普及促進制度

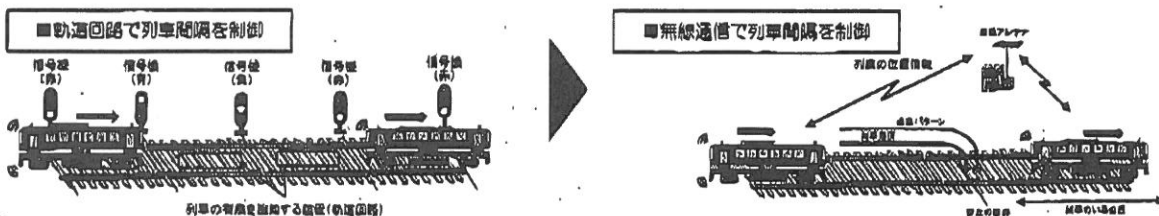
[国費：153百万円]  
(技術研究開発委託費)

今後我が国では、人口減や高齢化により鉄道利用者や働き手が減少し、また鉄道施設の経年劣化も進展する。このため、既存施設の有効活用を図りながら、鉄道の運営や施設の維持管理の効率化・省力化を可能とし、利用者の利便性の向上にも資する鉄道分野での生産性革命を進める必要がある。具体的には、以下のように国が主体的に関与すべきものについての技術開発及びその技術の普及を進める。

- 鉄道事業者のニーズはあるが、民間主導では開発が進まない技術
- 社会的要請が高く、鉄道業界に広く展開することが望まれる技術
- 特に経営の厳しい地方鉄道での導入が求められている技術 など

本制度によって取り組む技術開発のイメージ（地上設備の維持管理等の省力化）

無線等による列車の運行管理システムは、地上設備の削減が可能となり維持管理の効率化・省力化にも資することから、首都圏鉄道での導入が始まっている。一方、経営の厳しい鉄道事業者においても同様のシステムが導入できるよう、既存の技術も活用しつつ、当該鉄道の施設の状況に応じた技術開発・導入を図る。



## 7. 鉄道システム・技術の海外展開

### ○鉄道システム・技術の海外展開

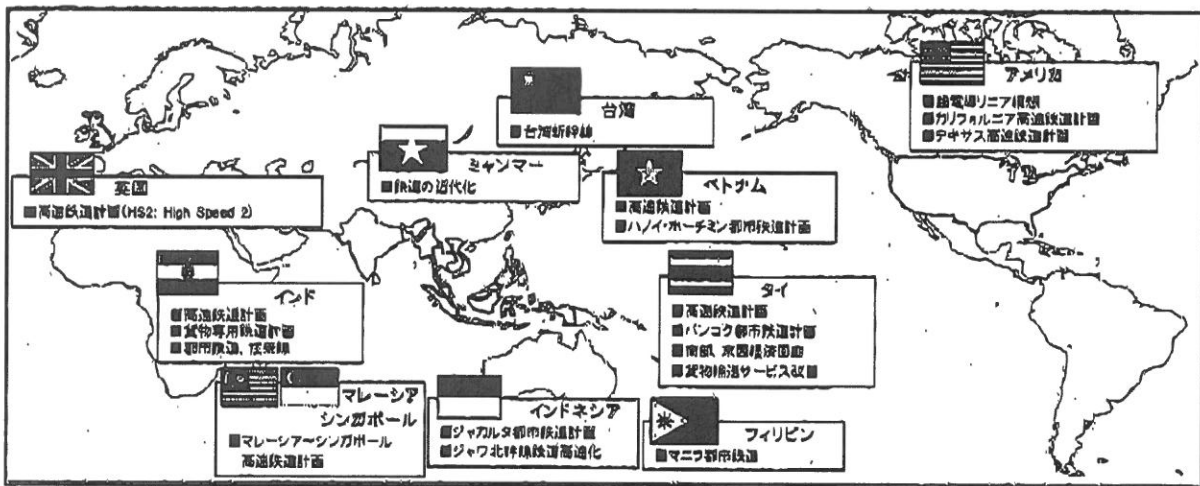
[国費：1,697百万円の内数]

現在、多くの国が国家プロジェクトとして鉄道整備を積極的に検討、推進しており、鉄道関連産業については、海外市場において大きな成長が見込まれている。

鉄道分野をはじめとするインフラシステム輸出は、安倍政権における成長戦略「未来投資戦略2018」（平成30年6月閣議決定）を支える重要な施策の1つとして位置付けられており、我が国鉄道技術の継承・発展及び鉄道関連産業の国際競争力向上・拡大を図り、我が国の経済成長を促進するために極めて重要である。

これまで、相手国政府への働きかけ等に取り組んできたが、その結果として、高速鉄道については、インドとの間でムンバイ～アーメダバード間高速鉄道への新幹線システムの導入について合意し、2017年9月の日印首脳会談に際して起工式典を開催するなど整備に向けた取組みを着実に進めており、また、都市鉄道についても、インドネシア・ジャカルタ都市鉄道南北線の年度内開業が予定されるなどの成果を上げているところである。

今後も、海外社会資本事業への我が国事業者の参入の促進に関する法律（平成30年8月31日施行）の制定も踏まえ、川上の段階から案件発掘・形成をさらに進めるとともに、官民連携によるトップセールス、株式会社海外交通・都市開発事業支援機構等を通じたファイナンス面での支援、我が国鉄道技術・規格の国際標準化対応や技術基準策定支援等に一層強力に取り組む。



- ◆都市化への対応、経済成長、雇用拡大、環境問題への対応等を目的に多くの国が鉄道整備を検討、推進中。
- ◆安全、安定、高頻度、大量輸送、省エネルギー性等の面で優れた我が国鉄道システムに対する国際的な期待。

※目標：2020年に約30兆円のインフラシステム受注  
「インフラシステム輸出戦略(平成30年度版)」

### 我が国鉄道インフラの海外展開促進

具体的な取組み

相手国への  
トップセールス

実現可能性調査やコンサルティング等を通じた海外鉄道計画への積極的関与

資金調達支援

<例>  
(財)海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN)、  
JICA、JBIC 等

鉄道技術・規格の国際標準化  
対応や技術基準策定支援

## 【関連事項】

### <観光庁予算>

- (1) 訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業
- (2) 公共交通利用環境の革新等

# (1) 訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業

予算額: 5,474百万円

○ 全国各地の観光地において、訪日外国人旅行者がストレスフリーで快適に旅行できる環境を整備するため、地方自治体や民間事業者等が行う外国人観光案内所の機能強化、トイレの洋式化、公共交通機関の移動円滑化、旅館・ホテルのバリアフリー化等の個別の取組を支援する。あわせて、観光案内所等の災害等の非常時の対応能力の強化を図る。

## 地方での消費拡大に向けたインバウンド対応支援事業

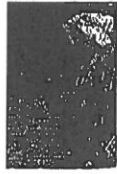
- 外国人観光案内所等の整備・改良等及び災害等の非常時対応の強化
- 公衆トイレの洋式便器の整備及び機能向上
- 手ぶら観光カウンターの機能向上
- 多様な宗教・生活習慣への対応力の強化 等

・外国人観光案内所等の整備・改良等及び災害等の非常時対応

・公衆トイレの洋式便器の整備及び機能向上

・手ぶら観光カウンターの機能向上

・多様な宗教・生活習慣への対応力の強化



## 宿泊施設インバウンド対応支援事業

○ 基本的なストレスフリー環境整備

・Wi-Fiの整備 案内表示の多言語化 決済端末の整備

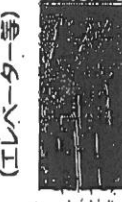
・自社サイト・多言語化等

・メニューの作成



○ バリアフリー環境整備

・トイレのバリアフリー化



・段差解消 (エレベーター等)



・出入口の改修

## 交通サービスインバウンド対応支援事業

- 多言語表記、多言語案内用タブレット端末の整備
- 旅客施設や車両等の無料Wi-Fi整備
- 旅客施設や車両等のトイレの洋式化及び機能向上
- 全国共通ICカード、QRコード決済等の導入
- 旅客施設や車両等の移動円滑化
- インバウンド対応型鉄軌道車両の整備
- 低床式車両の導入を始めとするLRTシステムの整備 等

・多言語案内用タブレット端末等の整備

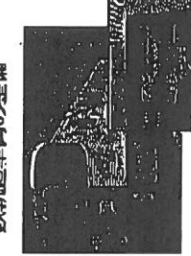
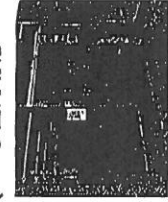
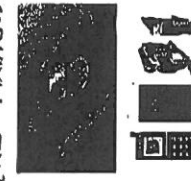
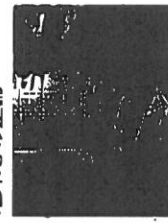
・無料Wi-Fiの整備

・トイレの洋式化及び機能向上

・全国共通ICカード、QRコード決済等の導入

・移動円滑化

・インバウンド対応型鉄軌道車両の整備



## 実証事業

- 災害発生時における外国人観光案内所の初動対応マニュアルの作成
- ナイトタイムエコノミー等の新たなニーズに対応した交通サービスへの推進に向けた調査 等

補助率

定額、2分の1、5分の2、3分の1、4分の1

事業主体

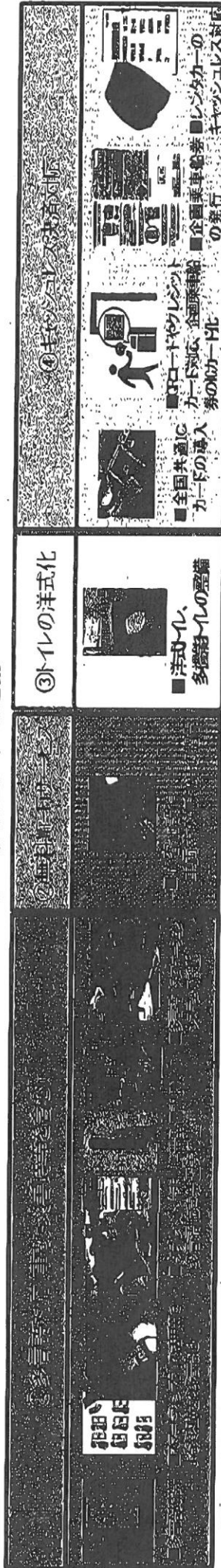
- (1) 地方公共団体 (税関等を含む)
- (2) 民間事業者 (公共交通事業者等を含む)
- (3) 特定非営利活動法人等
- (4) 協賛会等

# (2) 公共交通利用環境の革新等

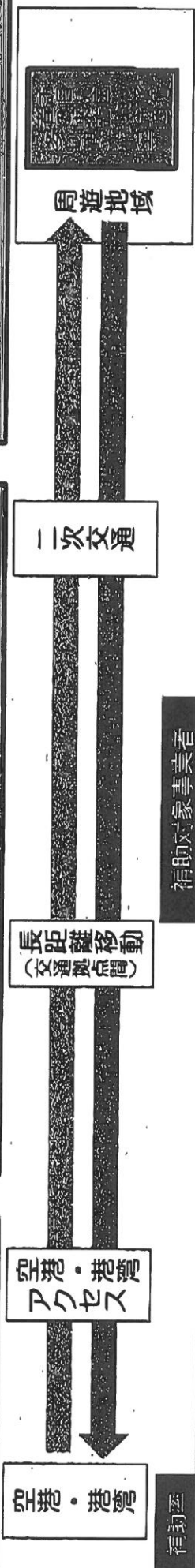
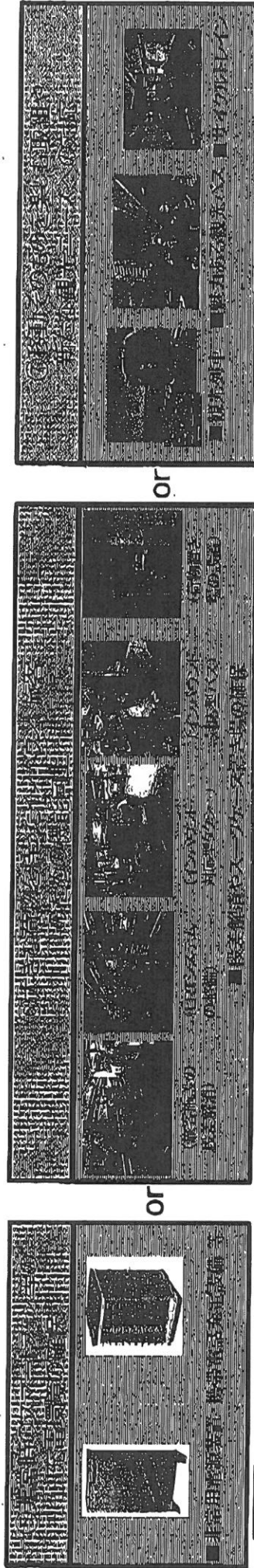
予算額：5,500百万円

○ 地方部への外国人旅行者の誘致の加速化に向け、我が国へのゲートウェイとなる空港・港湾から訪日外国人旅行者の来訪が特に多い観光地等に至るまでの公共交通機関の利用環境を刷新するため、外国人旅行者のニーズが特に高い多言語対応、無料Wi-Fiサービス、トイレの洋式化、キャッシュレス決済対応等の取り組みを一気呵成に進め、シームレスで一貫した世界水準の交通サービスを実現する。

## ①～④をセットで整備



## ✦ (あわせて⑤～⑦を支援可能)



(①～④のうちいずれかを実施済の場合は、1/3)

公共交通事業者、旅客施設の設置管理者等